

北陸地方整備局管内の工事事故発生状況と事例について

国土交通省北陸地方整備局企画部
 みやがわ みのる
 工事検査官 宮川 実

1. はじめに

北陸地方整備局は新潟・富山・石川の各県および山形県・福島県・長野県・岐阜県・福井県の一部地域の直轄事業を担当しています。

当地整備管内における、平成23年1～9月末現在までに発生した工事事故報告件数（速報値）は、76件（交通事故含む）で、過去5年では、最小の件数となっています。しかしながら、本年は、労働災害の発生件数が例年に比べ多い状況にあり、今後、工事の最盛期を迎えるに当たり注意喚起を促すなど、事故防止対策の徹底を図っているところです。

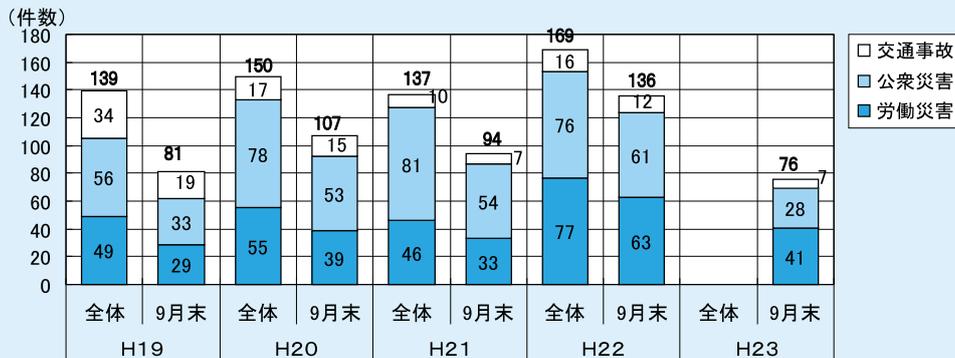
本稿では、平成23年9月末現在の工事事故発生状況とその事例および防止対策の取り組みを紹介

するものです。

2. 平成23年の工事事故発生状況

(1) 事故発生状況の推移

今年（1～9月）の工事事故発生件数（速報値）は76件で、対前年同月に比べ60件（約44%）減少しています（図—1参照）。また、過去5年（1～9月）の事故発生件数の中でも、最小値となっています。しかしながら、災害区分別に見ると、労働災害が41件発生し、事故発生件数に占める、労働災害の割合は、53%と5割を超え、過去5年（1～9月）に見られる傾向（公衆災害の多い事故発生状況）と異なっています。



図—1 災害区分別事故発生状況の推移（H19—23） H23.9月末現在

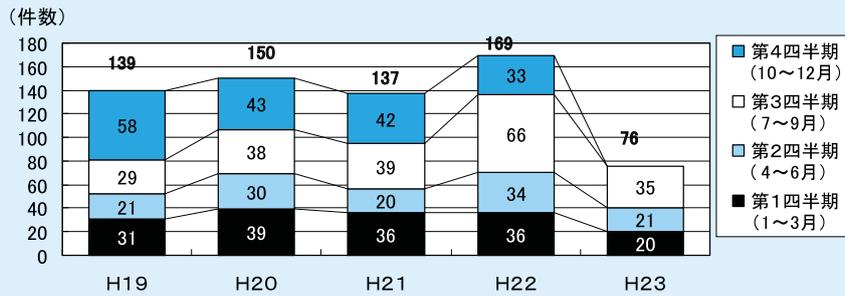


図-2 過去5年の四半期ごとの事故件数の比較

(2) 四半期別の事故発生状況

平成19年からの四半期別事故発生状況（図-2）を見ると、年度末の第1四半期と冬期前の第4四半期の工期末の繁忙期に多く発生する傾向にあります。本年も、繁忙期の事故防止対策が重要となってきます。

す。

重大事故防止のための現場の安全管理が重要となっています。

(2) 平成23年の労働災害の事例

●事例-1

- ・事故区分：取扱運搬
- ・工事概要：橋梁下部工事
- ・事故概要：鋼矢板をクレーンにより移動作業中に、吊り荷が横ぶれし、玉がけ作業をしていた作業員が仮置きしてあった矢板と吊り荷の矢板に左足を挟まれ、左足足首の骨折により、3カ月の休業となった。
- ・事故原因：◆クレーンブームが吊り荷の真上になかった。
◆クレーンと吊り荷の間に機械があり、目視できなかった。
- ・防止対策：◆合図者がブーム位置を確認し合図をすること。
◆クレーンオペレータの視界を妨げないこ

3. 平成23年に発生した事故の特徴

(1) 労働災害の特徴

平成23年1～9月末までの、労働災害41件の事故発生区分の内訳は、図-3のとおりとなっています。一番多く発生しているものは、建設資材等の運搬時に発生する、「取扱運搬等」が7件（17%）、「熱中症」が7件（17%）、次いで、「墜落」が6件（15%）の発生となっており、上位3区分で、半数を占める状況にあります。

また、労働災害事故に占める休業4日以上の重大事故の割合が（図-4）、32%と過去5年（1～9月）の状況と比較しても高い状況にあります。

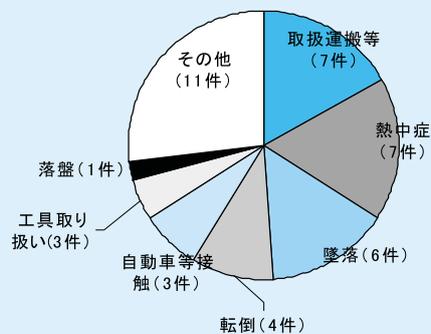


図-3 労働災害の内訳 (全報告数41件)

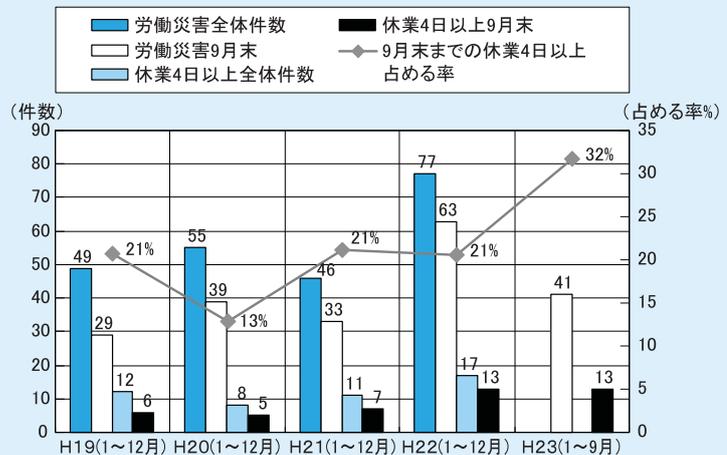
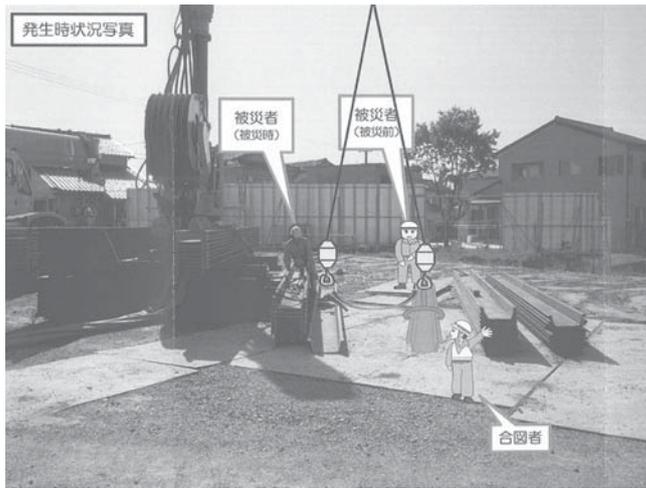


図-4 労働災害の件数と休業4日以上の件数の推移



写真一 作業状況

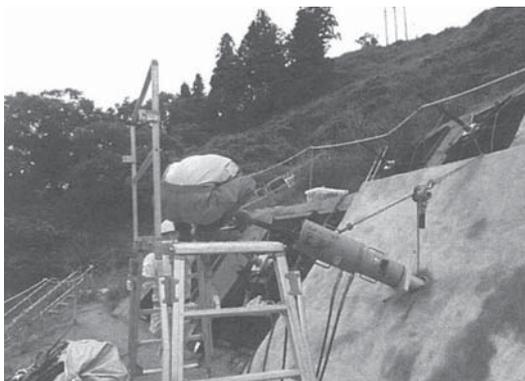


写真二 事故状況

と。

●事例一 2

- ・事故区分：転落
- ・工事概要：地すべり対策工事
- ・事故概要：法面アンカーを緊張するため、可変式足場の上にしゃがんでアンカーのヨリを戻す作業を行っていたところ、可変式足場の1脚が突然収縮して傾き、バランスを崩した作業員が高さ1.6mの可変式足場により転落し、その際に左腕を強打し骨折した。
- ・事故原因：◆施工計画にない、可変式足場を使用していた。
◆可変式足場の始業点検を実施していなかった。
- ・防止対策：◆法面作業においては、親綱・安全帯の使用を徹底。
◆予定外作業が発生した場合、施工計画を検討し作業を実施することを徹底。

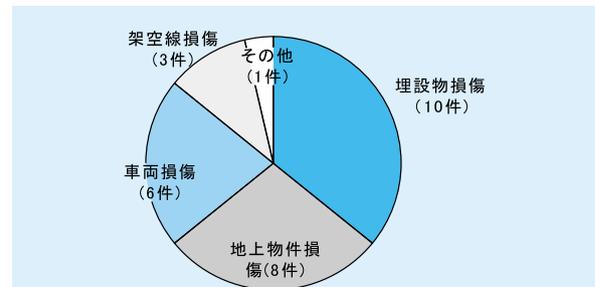


写真三 作業状況

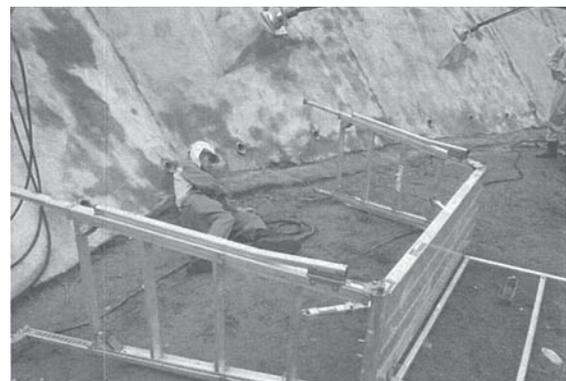
(3) 公衆災害の特徴

平成23年の1～9月末までの、公衆災害発生件数は、28件となっており、その内訳は、図一5のとおりとなっています。発生している事故分類を見ると、一番多く発生している区分は、水道管・通信管路等の「埋設物損傷」が10件（36%）を占め、全体の3割以上となっています。次に多い区分は、信号機・標識等の「地上物件損傷」と、上位2件で全体の64%を占めています。

過去5年における、埋設物損傷事故を見ると



図一5 公衆災害の内訳 (全報告数28件)



写真四 事故状況

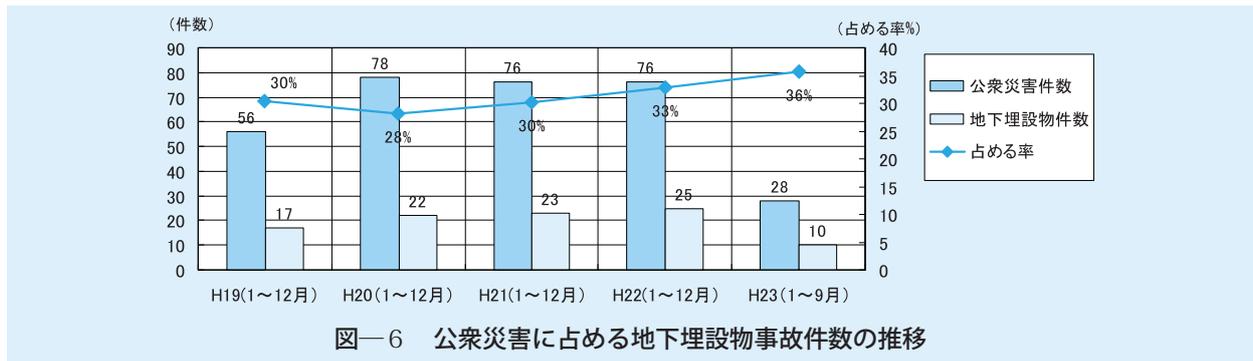


図-6 公衆災害に占める地下埋設物事故件数の推移

(図-6)、公衆災害全体に占める、割合も30%程度を占め、毎年ワースト1となっています。事前調査・試掘・慎重な施工や埋設物管理者の確認を徹底し、埋設物事故防止の徹底が必要です。

(4) 平成22年の公衆災害の事例

●事例-3

- ・事故区分：埋設物損傷
- ・工事内容：防護柵設置工事
- ・事故概要：防護柵の支柱打設を建柱車にて作業中に、信号ケーブルを打ち込んだ支柱により切断し、車道信号が45分間点滅し、歩行者



写真-5 事故箇所

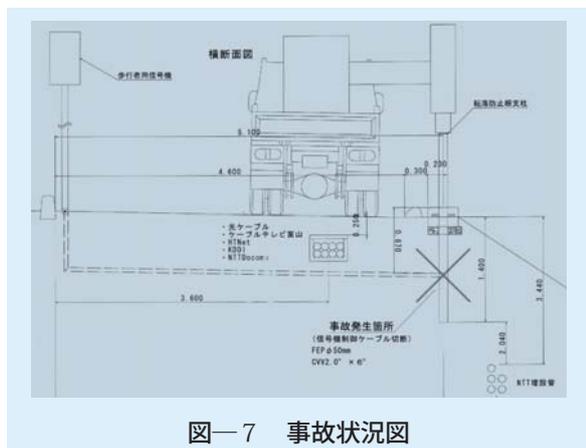


図-7 事故状況図

灯具が5時間にわたり消灯した。

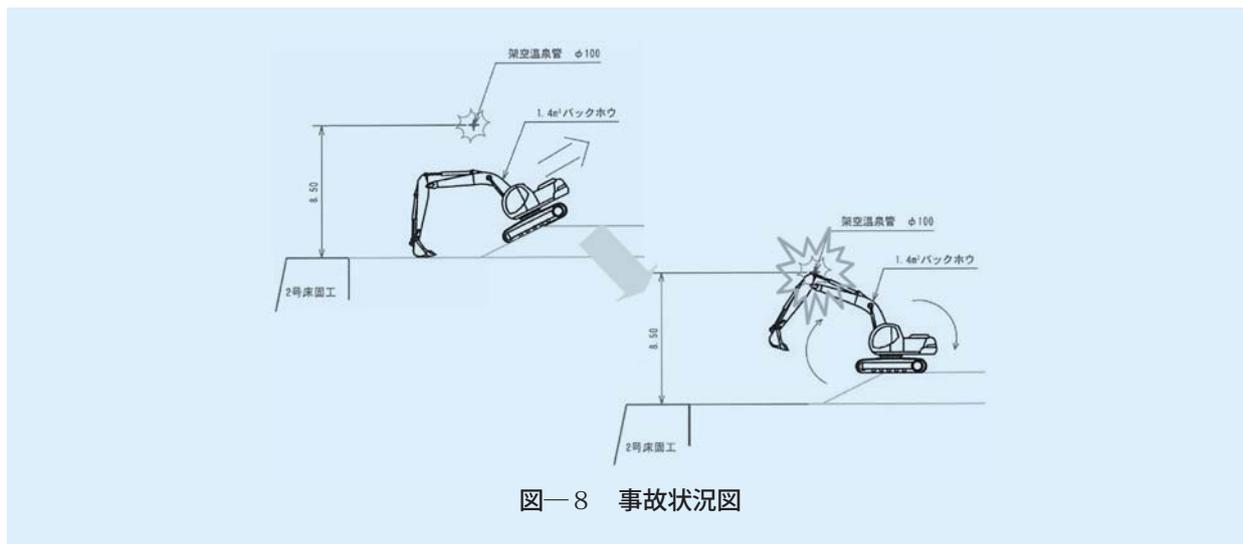
- ・事故原因：◆試掘箇所では埋設シートがなかったため、最後まで確認しなかった。
- ◆隣接箇所の作業で埋設物に支障がなかったことから、安全と判断した。
- ・防止対策：◆埋設物を台帳で確認した場合、埋設物箇所を試掘により確認することを徹底。
- ◆埋設物のもれがないか確実にチェックすること。

●事例-4

- ・事故区分：地上物件損傷
- ・工事概要：床固め工事
- ・事故概要：仮締切の撤去作業をバックホウ(1.4m³)にて、河床面で行っていたが、作業が終わり、一段高いヤードにバックホウがバックで斜面を上がり、ヤード面に着いた際、バックホウのアームが温泉配管に接触し、5時間半にわたり、温泉が断水した(ホテルの営業は休止中であった)。
- ・事故原因：◆後退での機械移動のため、作業床の確認が不足。
- ◆温泉配管の位置表示をしていなかった。



写真-6 事故箇所



図一 8 事故状況図

- ・防止対策：◆重機は、前進での移動を原則とする。
- ◆上空支障物の明示（三角巾等の取り付け）。

4. 工事事故防止対策の取り組み

北陸地方整備局では、管内事務所に対して、年度当初に「建設工事事故防止のための重点対策の実施について」の通知を出していますが、その後も事故の発生状況に応じて「事故防止」を周知するとともに、工事における事故の発生状況や安全対策事例を紹介する情報誌「あんぜん北陸」を発行するなどの取り組みを定期的実施しています。

さらに、安全活動に関しての優秀な取り組みをした施工者には、「安全管理優良請負者表彰」を行い安全活動の啓発にも努めています。

(1) 文書による通知

北陸地方整備局から管内事務所へ熱中症の対応、事故多発・重大事故の注意喚起等の文書通知を行い、節目・節目での事故防止対策を徹底しました。

(2) 「あんぜん北陸」による注意喚起

「あんぜん北陸」は、現場から送られてくる事

故速報をもとに、事故発生件数や事故の傾向等について四半期を基本に、メールおよびホームページにて、監督職員・受注者を対象に発行し、事故防止の注意喚起を行っています。

(3) 安全優良表彰

安全管理優良請負者表彰は、工事関係者の安全に対する意識向上を目的に平成11年から実施しており、本年度23社について表彰をしました。また、受賞者には、北陸地方整備局発注の総合評価落札方式においてインセンティブを与え、安全活動のさらなる意識向上を図っています。

5. おわりに

北陸地方整備局管内における工事事故の発生状況と工事事故事例および事故防止対策の取り組み状況を紹介しました。

工事事故の防止については、工事事故の減少に向けて、さまざまな取り組みを行っています。しかしながら、工事事故災害がなくなる状況にあり、引き続き、継続的に事故防止について、発注者・受注者とも最優先に取り組むべき重要課題として認識し、「工事事故ゼロ」を目標に取り組むことが重要であると考えています。